

HSK 通信

Go!Fly!Wheelchairs Newsletter No.64

No. **64**
Nov.2014

とべとべ

「飛んでけ！車いす」会報



もくじ

Special Thanks P2,3

引っ越し報告、開所式 P4,5

体験レポート P6

ソロモン諸島からのお客様 P7

20代理事の座談会 P8,9

**バスツアーパンフレット、
オススメ映画** P10

ゴロ野球 P11

編集後記 P12

「飛んでけ！車いす」の会とは

日本国内で使用されていない車いすを集め、東南アジアを中心とした国々に旅行者の手によって車いすを届けてもらう活動をすすめる認定NPO法人（非営利活動法人）です。

昭和48年1月13日第3種郵便物認可
HSK通巻番号512号（毎月10日発行）

発行 2014年11月10日
編集人 認定NPO法人「飛んでけ！車いす」の会 柳生一自
発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会
定価 100円（会員は会費に含む）

Special Thanks!...and

車いすを運んでいただきありがとうございます

斎藤 郁弥様.....フィリピン・マニラ
坪田 由紀子様.....フィリピン・セブ
正木 尚子様.....インドネシア・バリ
吉田 三千代様.....フィリピン・セブ
谷口 健様.....インドネシア・ジャカルタ、バリ
樋口 歩様.....東ティモール・ディリ
北海道YMCA佐藤雅一様.....ベトナム・ホーチミン
(株)加瀬工業様
.....インドネシア・バリクパパン

菅原 美和子様.....ジャマイカ
マリア・アデラ・ゲレロ様.....フィリピン・マニラ
辻 琴海様.....ベトナム・ハノイ
新保 朝子様.....ジャマイカ
エルメルズーキ・ワディエ様.....モロッコ
NECフィールディング(株)社会貢献倶楽部様
.....インドネシア・バリクパパン
JICA世界の笑顔のために
.....エルサルバドル、ガボン

車いすをご提供いただきありがとうございます

山の手養護学校様、島田 祐亮様、特別養護老人ホーム 和幸園様、石本 強様、西川 剛様、
梶浦 英子様、佐々木 孝様、三浦 真理様、大谷 永様

ご寄付ありがとうございます

《寄付金》NECフィールディング(株)社会貢献倶楽部様

《リングブル》市民活動プラザ星園様、(株)北星様、根森 正弘様、(株)パブリックリレーションズ様、
小林 志津子様、札幌北陵高等学校生徒会様、宗教法人 天徳寺様、上野 穰様、
札幌赤十字奉仕団北分団様、小金湯温泉・松の湯様とお客様

《書き損じハガキ》佐藤 則夫様

《ウェス》札幌赤十字奉仕団北分団様

《海外お土産品》在田 佳子様

《1円玉募金》小林 志津子様

1円玉募金ありがとうございます

合計 ¥33,816

引き続きお待ちしております!



〔2014年9月末現在・順不同〕

2424 Wheelchairs delivered!!

2014年9月末現在統計



◆アフリカ・欧州地区

- ①ベラルーシ 11台
- ②ベナン共和国 16台
- ③ブルキナファソ 24台
- ④エジプト 2台
- ⑤ガーナ 17台
- ⑥ケニア 23台
- ⑦レバノン 1台
- ⑧マラウイ 6台
- ⑨モーリタニア 2台
- ⑩モロッコ 10台
- ⑪モザンビーク 1台
- ⑫ナミビア 1台
- ⑬ルーマニア 7台
- ⑭セネガル 1台
- ⑮南アフリカ 1台
- ⑯タンザニア 15台
- ⑰チュニジア 6台
- ⑱ウガンダ 3台
- ⑲ザンビア 18台
- ⑳ジンバブエ 3台
- ㉑ナイジェリア 11台
- ㉒エチオピア 4台
- ㉓ルワンダ 4台
- ㉔カメルーン 5台
- ㉕ガボン 6台

◆アジア・大洋州地区

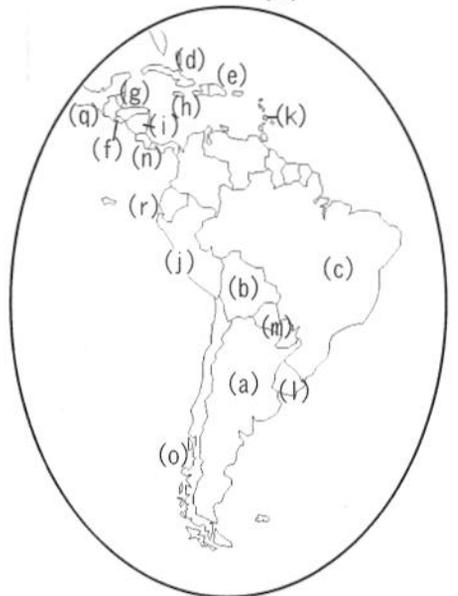
- (1)アフガニスタン 20台
- (2)バングラディシュ 41台
- (3)ブータン 1台
- (4)カンボジア 61台
- (5)中国 67台
- (6)インド 23台
- (7)インドネシア 100台
- (8)イラク 5台
- (9)ヨルダン 1台
- (10)韓国 32台
- (11)キルギス 11台
- (12)ラオス 26台
- (13)マレーシア 97台
- (14)モンゴル 11台
- (15)ミャンマー 47台
- (16)ネパール 63台
- (17)パキスタン 33台
- (18)パプアニューギニア 22台
- (19)フィリピン 218台
- (20)ロシア連邦 10台
- (21)サイパン 2台
- (22)シンガポール 25台
- (23)スリランカ 52台
- (24)タジキスタン 2台
- (25)タイ 305台
- (26)トルコ 3台

- (27)ウズベキスタン 46台
- (28)ベトナム 551台
- (29)シリア 4台
- (30)フィジー 9台
- (31)ミクロネシア 12台
- (32)バヌアツ 6台
- (33)東ティモール 2台

◆南米・中米・北米地区

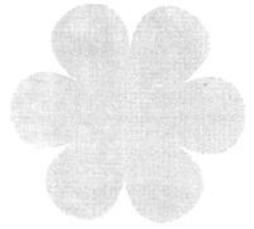
- (a)アルゼンチン 16台
- (b)ボリビア 4台
- (c)ブラジル 16台
- (d)キューバ 24台
- (e)ドミニカ共和国 5台
- (f)エルサルバドル 45台
- (g)ホンジュラス 11台
- (h)ジャマイカ 7台
- (i)ニカラグア 31台
- (j)ペルー 14台
- (k)セントルシア 1台
- (l)ウルグアイ 14台
- (m)パラグアイ 4台
- (n)コスタリカ 8台
- (o)チリ 4台
- (p)カナダ 2台
- (q)メキシコ 2台
- (r)エクアドル 15台

◆日本(リサイクル)95台



77ヶ国へ
飛んでいきました

引っ越し基金へのたくさんのご支援 ありがとうございました。



私たちは2014年7月26日に無事に市民活動プラザ星園から新事務所へ引っ越しをすることができました。

引っ越しに際し、設立当初よりお世話になっている札幌通運さんと、新しくニコー流通さんの協力のもと荷物を運ぶことができました。

新事務所はバリアフリー化を行っています。トイレの拡張、入口のスロープなどスタッフが手作業で行いました。

これから桑園倉庫の整備作業室も事務所への引っ越しも控えています。事務所と作業室が一緒になることはスタッフの長年の夢でもあります。

今回の引っ越しへの、暖かいご支援本当にありがとうございました。

整備作業室の引っ越し作業やバリアフリー化などはまだ途中の段階です。今後ともどうぞよろしくお願

Special Thanks

吉田 雅子様
下村 朋史様
小林 志津子様
池田 裕子様
麻薙 愛子様
横山 清一様
梅田 カツ子様
成田 悦子様
石本 強様
色川 泰子様
柳澤 明美様
佐藤 雅一様
加賀 宣美様
池永 充伸様
荒谷 信子様
(有)アルキミア様
鈴木 佐和子様
國田 裕子様
伊藤 晴彦様
笠井 睦代様
原田 貴礼様
土井 正三様
溝下 八倉様
樋口 徹様

札幌通運(株)様
(株)ニコー流通様

その他沢山のみなさま

[9月30日現在]



引っ越しのご報告と開所式



7月末、たくさんの人の協力とスタッフの努力により地下鉄東西線西28丁目駅のすぐそばに新事務所を構えることができました。

写真の現像所だった建物を改装。玄関前のスロープの設置、車いす使用者のためのトイレの拡張がスタッフの手によって行われました。これまでの事務所に比べて広いので、作業がしやすくなり、車いすでの移動もラクラクとできるようになりました。

2階もあり、整備作業所や倉庫としての活用も視野に入っていますが、未だ検討中です。ちなみに階段でしか上がれません。車いす使用者のためにホームエレベーターがあれば良いのですが、かなりの費用がかかるようです。



スロープで車いすも楽々入れます



この移転を記念して秋晴れの9月27日に報告会と開所式が行われました。

まずは、理事である樋口歩さんの旅のお話。車いすの届け先はインドネシアにほど近い東ティモール。この国には内戦で負傷し、車いすを待っている人はまだまだいるそうです。

入国審査でハブニング、道端で売られていたペットボトルの怪しいお酒！？の話など、ユーモアと写真を交えた内容で、普段あまり馴染みのない東ティモールへの興味が湧く内容でした。

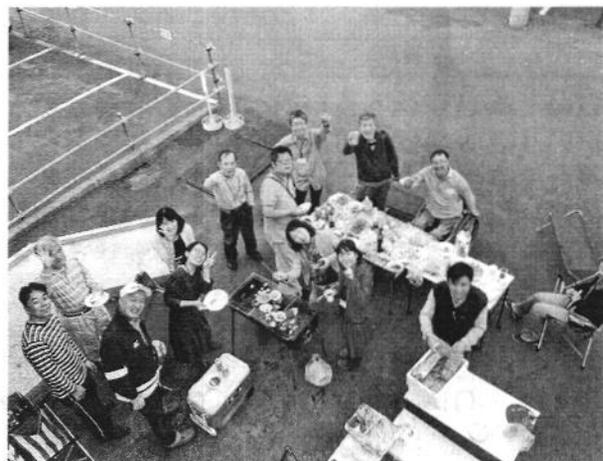
続いて外でのバーベキューではお肉はもちろん、小平と紋別から届いたばかりの新鮮なホタテをビール、ワインとともに美味しくいただきました。

当日は、遠方から駆けつけた人、久しぶりに会う人もいたので、互いの近況を語り合いながら再会を喜びました。

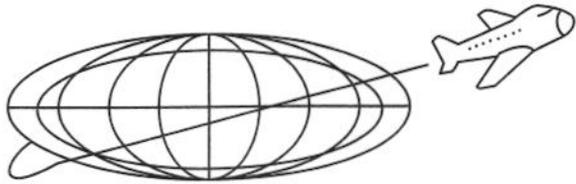
そして、若者たちが「飛んでけ」から道外、海外へと巣立っていきましたが、彼らからビデオレターと電報によるお祝いのメッセージも届きました。昔を懐かしく思い出すと同時に、現在の活躍している様子を知ることができたのは、とても喜ばしいことです。

その後は、出席者で飛んでけの歌を合唱し、それぞれの「飛んでけ」への思い、これからの抱負を語りました。

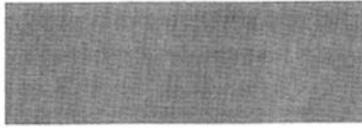
このように「飛んでけ」はひとりひとりの情熱で成り立っています。新事務所が、人と人とが出会える場所になり、それが「飛んでけ」の発展、メンバーの飛躍につながれば良いなと思っています。



事務所前で乾杯！



体験レポート



〈届け先〉 インドネシア・バリ
〈旅行者〉 正木 尚子さん



夏休みに、87歳と80歳の父母を筆頭に総勢7名でバリ島への家族旅行計画が持ち上がったとき、この大人数を生かして車いすを運ぶことを思いつきました。出発の日にはちょうどお盆の帰省Uターンラッシュにぶつかってしまい、千歳空港は大変混雑していました。そんな中、5台の車いすと荷物を3人だけで運ぶことになってしまい、チェックインまでとても苦労しました。

しかし、実際にSenang Hati Foundationに着いて車いすを下ろしたとき、皆さんが新しい車いすを心から喜んでくれている様子を見て、運んで本当によかったと思いました。あまり滞在時間はありませんでしたが、車いすを荷解きし、一人ひとり新しい車いすに移動するお手伝いをしました。Gustiさんは赤ちゃんのいるお母さんで、新しい車いすで赤ちゃんを抱っこすると、とてもうれしそうに辺りを動き回り、赤ちゃんをあやしていました。出発前に何度かメールで連絡をとったAyu Manさんも新しい赤い車いすをとても喜んでくれ、何度も何度も手を合わせながら日本語で「ありがとう」と言ってくれました。残念ながらIlda Bagus君のために運んだ車いすは彼の体に合いませんでしたが、他の子供のために活用してくれるとのことでした。バリは様々な施設がバリアフリーとは言えず、車いす生活者にとっては不便な環境であろうと思いましたが、皆さん一様に明るく生活していらっしゃるようでした。

目的の家族旅行で、私たちにとって車いすや障がい者福祉施設はこれまであまり身近な存在ではありませんでしたが、観光地ではない場所に行き、現地の一般の方々と実際に触れ合うことができたこと、そして誰かの役に立ったということは、自分たちの旅行をより充実させる要素のひとつとなったと思います。また大学生の甥や中学生の娘をはじめ、私たちが今回の旅行を通じて車いすを以前よりも身近なものとして捉えることができるようになったことは、自分たちの日常生活上の視点を少し変えるきっかけとなり、大変貴重な機会になったと思います。

私たちのような車いす初心者が、観光の合間に車いすを届けるという旅行スタイルがもっと身近になり、ボランティアの裾野がもっともっと広がることを願っています。



車いすを運んだことは、私たちにとっても非常に収穫の多いものでした。今回の旅行は観光

ソロモン諸島からのお客さま

「飛んでけ」の開所式の日、に دونالدさんが初めて事務所に来てくれました。北海道大学でユニバーサルデザインを学んでいる دونالدさん。彼は故郷のソロモン諸島へ車いすを持っていきたいと語ってくれました。そんな Donaldさんへお話を伺いました。



Kuare C Donaldさん



オーストラリアの右上にある島々がソロモン諸島

みなさん、こんにちは。私はソロモン諸島から来ました Donald です。ソロモン諸島は、太平洋の奥のオーストラリアの北東に位置する国です。私は札幌の北海道大学大学院にて建築計画の研究をしています。現在、日本に住んで4年になります。—そんなに長くはないですね？

どうやって「飛んでけ」を見つけたのか？
ええと、それは幸運か、神の仕業か…。それは休暇前の暑い夏の日。私は工学部図書館で涼んでいて、英字新聞に夢中になっていたとき。

—“贈り物”として車いすを必要な人へ提供する—
数行の「飛んでけ」の文章を見つけました。そして、記憶が蘇っていきました。

国での私の若い頃の記憶を振り返ると、“援助を必要とする”人々との身近で、重たい経験がありました。1人目はかつて杖で動き回っていて、電話オペレーターとして地方自治体に勤務していた Joji と呼ばれる男性です。もう1人は若い男性です。2009年、“ローカルリゾートデザイン”の研究課題に取り組んでいるときに海沿いの漁村で彼に出会いました。彼の笑顔を見たとき、私の記憶が蘇っていきました。彼は小学校時代の友人だったのです。中学校を卒業した後、足が不自由になっていたなんて知りませんでした。名前を Abrosi と言います。3人目は村の神父であり、私の叔父の Tomasi。足を切断していました。叔父は最近亡くなりました。

Abrosi は私の心を大きく揺さぶりました。なぜなら、私たちは昔一緒にサッカーをしたり、自由に動いていたのに、今動けなくなっていたから。彼の村は楽園だったけど、Abrosi は楽しめていませんでした。“私には何かできる？”という疑問が沸き起こりました。建築家として言えば、彼との出会いは私の興味は、“ユニバーサルデザイン”というテーマへと形作りしました。

数週間後、「飛んでけ」にメールを送りました。しかし、返信がなかった。「ここは日本なのにどうして返信が遅いんだ？」と思いました。やっと返信が来ました。署名には“Ayumi”と書かれていました。間もなく、私はNPO団体へ向かうべく、それは初めて彼らに会うために、開所式に立ち会うために、地下鉄「東西線」に乗っていました。私たちは握手し、テープカットをし、そして、みなさんと知り合いました。三千代さんが引き継いで、みんなの輪に入れてくれました。そして、香澄さん、葉子さんも。

Facebookでの私たちが一緒に写った写真を見てかもしれないが、その後数週間で私の地元の人から19件の反応がありました。この原稿を執筆した上で、12月の旅行で、(まず初めに) Abrosi のための車いすを届けよう決めました。「飛んでけ」からの贈り物として。個人的には、故郷での思い出を癒し、また取り戻すために。ありがとうございました。

20代理事の

「飛んでけ」座談会

～車いすとの思い出～

代表理事 中原 宏和

「飛んでけ」に関わって8年目。届けた車いすは1台、スタディーツアー3回参加

理事 佐々木 香澄

「飛んでけ」に関わって9年目。届けた車いすは個人旅行で9台、スタディーツアーに5回参加

理事 中島 里奈

「飛んでけ」に関わって8年目。届けた車いすは個人旅行で2台、スタディーツアー2回参加

佐々木: ふたりが「飛んでけ」に入ってから初めての
大仕事は「飛んでけ」10周年だったよね。
どうだった?

中島: 私はそれをきっかけにみんなと仲良くなりました。
「飛んでけ」に行くのが楽しくなりました!

中原: 僕はドラム叩いたり、音楽隊が楽しかったです。
あと正尋さん(佐藤理事)に出会ったのも
そのときが初めてで、「飛んでけ」の歴史を知
ることができました。

佐々木: そして、やっぱり車いすを届けると「飛んで
け」に関わる気持ちが強くなるよね。
私は2007年に初めてスタディーツアーに参加
して車いすを届けました。タイで車いすを届け
た子どもたちの顔を今でも思い出します。

中原: 2008年のベトナムツアーはとにかく雨。細見
さん(元学生ボウ)が1年前に届けた車いすの
男の子に会い感動しました。

佐々木: ベトナムの田舎で男の子の車いすのタイヤに空気を入れてあげたら、お母さんが泣いて喜ん
でくれたよね。

中島: バングラディッシュツアーは私が届けた最初の車いす。バングラディッシュは人に囲まれて有名人
みたいだったけど、最初怖かったですよね。(笑)

佐々木: スラム街に住んでいて、前に車いすを届けた男の子に会ったよね。

中島: 学校にも行きましたね。障がいのあるなしに関係なく、みんな仲良く通っていたのが印象的で
した。

佐々木: タイの国境沿いでゴミ山歩いたの覚える?

中島: もちろん。メーソット(ゴミ山がある町)は衝撃的でした。違法移民が本当にたくさんいて、
医療も満足に受けられない環境を見て、私は日本という国に守られているんだなと思いま
した。



理事3人タイのアユタヤ遺跡にて



(左)人に囲まれる佐々木理事・中島理事、(右)以前車いすを届けた男の子(バングラデシュ)



中原理事が初めて車いすを届けた女の子(タイ)

佐々木：個人旅行で届けたときはどう？

中原：初めての一人旅、一人での初めての車いすがタイ。女の子とお母さんが嬉しそうにしているって持って行ってよかったな～、と思いました。

佐々木：私も一人初車いすはタイ。車いす運ぶのは大変だったけど、届けた瞬間に喜びに変わりました。

中島：個人で届けたのは香澄さんと一緒に行ったカンボジア。車いすを届けたとき、嬉しそうに車いすに乗って漕いでいる姿を見て、嬉しかったです。

佐々木：車いすと一緒の旅の良さってなに？

中原：仲介団体のひとがおいしいものや楽しいことを教えてくれて普通の旅行では味わうことができないことができます！。

中島：日本にいるだけじゃ見えない世界の貧困や問題を肌で感じることができました。知らないじゃ済まされないということをお願い学びました。

佐々木：車いすを受け取った家族との交流も本当に楽しい。現地に家族が出来たみたいな気持ちにもなります。

佐々木：宏和はコーディネーターとして思い出の車いすは？

中原：2000台目を運んだ高校生の車いすですね。プレスリリースをしたら取材にもたくさん来てもらって反響に驚きました。

佐々木：そして高校生たちの感想が本当にすばらしかった。若い世代に引き継がれている気がしたよね。

中島：高校生たちの素直な感想が、また頑張ろうと思わせてくれました。

佐々木：次回はどんなところに車いすを届けたい？

中原：初めての一人旅で届けた女の子に会いに行きたい！

中島：ベトナムのチュンさん（ハノイ在住車いす製作者）に会いたいです！来年行けないかなあ。

佐々木：私は…タイですね！



佐々木理事が車いすを届けた思い出の家族(タイ)



車いす使用者のための路線バス 乗車ガイドブック紹介!

昨年度、「飛んでけ! 車いす」の会では「車いす使用者が気軽にバスを利用するためのフィールドワーク車いす路線バスツアー」という事業を行いました。車いす利用者がもっと路線バスを利用しやすくなるため、乗車ノウハウを20ページの冊子にまとめました。この冊子は札幌市内にて配布中です!

♪使いやすいコンパクトサイズ!



縦21cm、横10cmでズボンのポケットにも収納可能! 必要な時に取り出し、ささっと開いてみるができます。乗車する中で頼みたいことや緊急時に必要なことなどを書いておくフリーページも付きました。いざという時に便利です!

♪バスに関する情報が満載!

障がい者割引について
路線バスの運賃は、全乗客で割引運賃が適用されます。旅行・長距離バスを含む。障害の種類によって内容は異なりますが、1 種の方は本人と付き添い! 各車で半額。2 種の方は本人のみ半額となっています。札幌市では、これ以外にも以下の2 種類の割引制度を実施しています。

福祉ウイズカード
福祉用の福祉ウイズカードは1,000円以内で地下鉄駅にて購入できます。1,100円以内で利用可能で、自動的に大人福祉運賃が適用されます。身体障がい者、知的障がい者、養護児童、情緒障がい者、視覚障害、聴覚障害者、または、その介護人のみ使用が可能です。個人乗車バス乗車時は、必ず身体障害者手帳・療育手帳などを提示する必要があります。

福祉乗車券
札幌市で提供している障がい者交通助成の一つで、札幌市の地下鉄・市電・バスを無料で利用できます。路線バスで札幌市以外に行く場合は札幌市内区間まで無料です。

※詳しくは札幌市障がい福祉課にお問い合わせください。

スロープを出してもらい、上がりやすい方法で乗車します。

スロープがない場合はF10の段差を上げる方法で乗車します。

車いすの指定席にはいろいろな種類があります。乗客手紙にしっかりと固定してもらいましょう!

乗車時の車いす固定方法やバスの予約方法はもちろんのこと、札幌市内のバス料金助成情報についても紹介しています。

この冊子は、以下の公共施設や札幌市各区の社協・区民センターなどに設置しています。是非お手にとってご覧ください! ※在庫切れの場合もあります。ご了承ください。

- エルプラザ ●かでの2・7 ●身体障害者福祉センター ●社会福祉総合センター
- 市民活動プラザ星園 ●厚別区社会福祉協議会 ●手稲区社会福祉協議会 ●清田区社会福祉協議会
- 西区社会福祉協議会 ●東区社会福祉協議会 ●南区社会福祉協議会 ●白石区社会福祉協議会
- 豊平区社会福祉協議会 ●北区社会福祉協議会 ●中央区社会福祉協議会
- 社会福祉協議会厚別事業所

(順不同)

おすすめ映画紹介～矢沢栄吉 RUN&RUN～

ライブ映像とアメリカを旅する姿で構成された1980年のドキュメンタリー。2つの印象的なメッセージについて書きたいと思います。

1つ目は「ロックに偏見は無いと言うが、会場を借りるのも大変だ」

偏見などの見えない敵、理不尽さと闘ったということだろうか、車いすでの生活も同じだと思ふようになります。

2つ目は「20代に頑張らないと、30代へのパスポートをもらえない」

これは、20代、30代に限らず「充実した人生を送るために常に全力を尽くせ」と教えられた気がします。一見、平らでも、車いすには凸凹な道路を進む時、彼の歌が力になります。エネルギーな矢沢栄吉をぜひご覧ください。

「人間は皆幸せにならなければならない」 by YAZAWA

(レポート/上野 穰)

熱闘スポーツ!ゴロ野球紹介!

秋も深まってきました!秋といえば、スポーツの秋ですね。ということで今回は誰でも楽しめるゴロ野球というスポーツについて紹介します!そして実は「飛んでけ」にもゴロ野球とステキなつながりが…?



★その人に合わせたルール

ゴロ野球とは、30年前以上から札幌市内の養護学校で盛んに取り組まれている野球です。3アウト制やファールボールなど、基本的なルールは野球と同じですが、打ち方や守り方、ベースの距離、ピッチャーの投げる位置は選手一人ひとり異なります。例えばツーストライクまで投げたボールを打って、最後は転がしたボールを打ったり、相手の打球を車いすの車輪に当てればアウトになったりなど、選手が力を発揮できるように考えられたルールになっています。

★エース愛用の車いすが海外へ

子どもの成長は目まぐるしいもの。ゴロ野球球児も然りです。成長に伴い体が大きくなって車いすを作り替えますが、前乗っていた車いすは施設や養護学校へ寄付されることが多いです。それらの中で「飛んでけ」へ提供され、海外へ届けられる車いすもあります。まさに車いすのバトンですね。その車いすはかつてエースや強打者と呼ばれる球児たちと一緒に体育館を駆け回った名機たち。海外へ飛んでいった車いすの中にはそんな歴史を持つものもあるはず…。そう思うとなんだか誇らしい気持ちになります。僕もこの夏に古い車いすを提供し、その車いすはインドネシアへと届けられました。ジャカルタの養護学校に通う男の子が使っているそうです。新しい持ち主さんと共に第二の車いすライフを過ごしてくれればと祈るばかりです。
(レポート/島田 祐亮)

★年2回の全道大会

1年に2回、全道に存在するチームが2リーグに分かれて大会試合を行います。札幌市内の養護学校2校を大会球場として白熱したゲームが繰り広げられます。養護学校のゴロ野球部は勿論のこと、OB・OGチームもたくさん参加します。場内はエースの剛速球や強打者の虹を描くようなホームランなどで歓声と熱狂に包まれます。



野球球児からの車いすを受け取ったショーン君(左)

